



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1893号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 渡辺 雅晃 幹事 黒田 一



広重版画より 三島 朝霧

第1956回例会

2012.11.15晴

司 会

三田明宏君

ロータリーソング

「日も風も星も」
指揮 前田博利君

会長挨拶

会長 渡辺雅晃君

小原庄助さん、なんで身上つ～ぶした。朝寝、朝酒、朝湯が大好きでそれで身上つ～ぶした。という昔からの言い伝えがありますが、さすがに私も朝寝、朝酒はやりませんが朝湯は気分の良いものだと思います。

特に温泉に行った時のそれは格別です。また呑気な人柄のように連想できてわたしには好感が持てます。

人は人に好かれることが大事です。ですから人が寄って来ないような人には情報も集まらない、と考えられます。いずれにせよ私もまだまだ修行が足りないようようです。

“こんにちは、ようこそ”

ビジター 渡辺妙子君(三島RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メ ー ク ッ プ	修 出 席 正 率
前々回	47/53	88.68%	49/53	92.45%
今回	37/50	74.00%	会員総数	54名

欠席者 石井(彰)君、石井(良)君、亥角君、窪田君、佐野君、諏訪部(照)君、諏訪部(敏)君、登崎君、花房君、原君、藤江君、森崎君、矢岸君

おめでとう

会員誕生日 佐々木君
結婚記念日 関本(文)君、黒田君

幹事報告

幹事 黒田 一君

- ① 11月18日山梨県甲府にて行われる地区大会へ出席者は朝7時に楽寿園北口付近に集合して下さい。
- ② 11月22日(木)例会終了後次期役員選考委員会第2回目を開催致しますので、選考委員の方はお残りください。

2012～2013年度
国際ロータリー会長
田中 作次

奉仕を通じて平和を



スマイルボックス

◆柳田君、本日、早退させていただきます。

卓 話

自己紹介

川名正洋君

株式会社和楽の川名です。西本町で酒屋を営んでいます。創業は大正10年です。昔は川名という苗字が少なく、父の姉二人が学校の先生をやっていたこともあり、川名だというと酒屋さんねとよくいわれました。

私は1965年(昭和40年)三島市で川名家の2兄弟の次男として生まれました。小学校時代は2年生からソフトボールをはじめ、4年生から三島市のサッカー少年団に入り、6年生の時に西小学校に少年野球ができた野球をやるようになりました。野球をやるようになったのは、父の影響が大きかったと思います。

小学生時代は野球がない日は川に釣りに行ったり虫を取りに行ったりと、毎日小学校から帰るとランドセルを置き、暗くなるまで帰ってこないという感じで、とにかく勉強よりも体を動かすことが好きでじっとしていない子でした。その頃のエピソードをひとつ言うと、夏休みだったと思いますが、従兄弟に勉強を教えてもらっていて、それが嫌で「お母さんが呼んでるから」とその場を離れそのまま遊びに行ってしまうなどしていました。そのことはいまだに従兄弟に会うと言われます。

そんな自分ですが、小さい頃のことで今でも役立っていることもあります。それは家が商売をやっていた関係で、普段は祖母がいろいろ面倒を見てくれました。おかげで祖母からしつけなどうるさくいわれたことは、今も役立っています。中学は南中学校に入学し、野球部に入り3年間過ごしました。その後日大三島高校に入学しました。高校では体が小さく体力的についていけないと思い野球はやめ、帰宅部として3年間過ごしました。今はそうでもないかもしれませんが、小さい頃は背が低く、中学校卒業時は160cmくらいしかなく、前から3番より後ろに並ぶ事はありませんでした。父からはその頃、野球をやるなら身体が大きくなければダメだと言われ、食が細く食べられなかった自分に胃の働きをよくするようにと食前酒としてワインや養命酒などを飲まされていました。きっとそこでお酒の味を覚えてしまったのだと思います。

高校に入り私の人生が大きくかわることがおきました。1983年9月1日に私の2つ上の兄が、大学の夏休

みを利用してアメリカのイエール大学のサマープログラムに参加し、その帰路でソ連の戦闘機にサハリン上空にて撃墜されるという事件に遭ってしまいました。16カ国乗客乗員あわせ296名が亡くなる、いわゆる大韓航空機撃墜事件です。ちなみにその日は兄の20歳の誕生日でした。ちょうど高校3年の2学期の始業式でもあり、学校に行こうとした時に、祖母が大変だ！テレビの画面に兄が出たと大騒ぎになりました。その光景は今も憶えています。その日から私の生活は一変し、その9月は学校を半分以上休み、学校が終ると店に行き夜閉めて家に帰るような生活でした。

父は日本人犠牲者28人の遺族会会長となり、事件の真相究明や補償問題のためその後多くの時間を費やしました。父が晩年、私と飲みながら「俺の人生はそれなりにやりたいこともやったし、楽しい人生だったけど、唯一の失敗は兄が亡くなったことだ」と言っていたことが今も強く心に残っています。

私は高校では理系のクラスにいたので将来はそちらの方向に進もうとしていましたが、家の状況を考えてとすぐに三島を離れることもできず、文系ならば一年間は三島にいられるということで、進路を変えました。悲しいかその時には他の大学に行くとか何かしたい職を見つけるとかそんな気持ちもなく、ただ毎日現実に追われてしまっていました。

父からは「男だから一浪でも二浪でもいいから好きな大学行ってすきな事しろ」と言われましたが、大学時代から休みの時は配達などを手伝っていたので、卒業後は家業をやるのかな？くらいは思っていました。卒業時はバブル景気の最後ぐらいだったので就職先も多くあり自分も一度どこかに就職しようと思っていましたが、その矢先に当時の社員2人が配達中にもらい事故に遭い、幸い最悪な事態にはならないで済みましたが、その日の配達から困ってしまい、たまたま東京から帰ってきていた私はその日から毎日配達をし、1週間に一度の授業は三島から新幹線を通う日々が卒業まで続きました。そして結局そのまま(有)川名酒店に入社することになりました。

入社後は、周囲の友達がバブルの恩恵を受け楽しんでいるのを羨ましく思いながら、日々配達をしていました。その後平成14年37歳の時に社長になり社名を(有)カワナに変えました。その後、平成20年に函南町の久保商店と長泉町の山本酒店と合併し社名を登記(株)和楽としました。社名はみんなで和になり、新しい酒屋のスタイルをつくりながら楽しい会社にしたいという思いからつけました。

我社も今年27日で設立から40年、私も社長になって10年を迎えます。これもひとえにお客様や応援してくれる方々、また、大変な仕事をしてくれる社員のおかげだと深く感謝しています。これからもお客様が繁盛するように、またお酒を通じてみなさんが楽しい時間を過ごせるように、社員一同努力していきたいと思えます。

(週報担当：石川直樹)